

昭和六年の流行りもの —ベビーゴルフ—

ベビーゴルフとは、トムサムゴルフ・ミニチュアゴルフなどとも呼ばれ、ゴルフ場を小さくして手軽にしたもので、後述のアメリカのベビーゴルフ場は、屋外では広くて一万坪、屋上・室内などにも設置された。

一九三一（昭和六）年の流行は、アメリカからやつてきたが、アメリカでは、一九二六年頃、テネシー州のフェアリーランドホテルの経営者が設置した子供向けのコースから始まり、次第に大人もプレーするようになつたといふ。また棉実殻をグリーンに入れる特許を取得して大々的に売り出した結果、二九年には全米各地にベビーゴルフ場が出来たといふ。この経営者は、「トムサムゴルフ」として特許を取得したが、全米への広がりに如何ともし得なかつたという（西村貫一一九三一年、ベビーゴルフ研究会一九三一年）。

一九三〇（昭和五）年一〇月に発行された『大横浜』第二七巻第六号では、米国雑誌の摘録として、アメリカで爆発的な流行となつてゐる様子を紹介している。「米国では旋風的の人気を博し猫も杓子もそれに熱狂」し、全米に三万のコースがあり、今も「雨後の筈のやうに」増加している。不景気の時代に、これらのコースはどれも大繁盛なので、ビルの屋上、空き家、空き劇

場などちょっとした空き地があれば、たちまちゴルフコースに改造される有様だと書かれている。また、賭博の流行や夜間の騒音など社会問題を引き起こしたようである。この後、「英國にも渡つてこゝでもまた熱狂的流行を誇つて」日本にも渡つてくることになる。

日本上陸

日本における最初のベビーゴルフ場は、一九三〇（昭和五）年一〇月、下羽寅吉が東京芝浦に開設した一八ホール、七〇坪ほどのコースだという（下羽寅吉一九三一年）。東京では三年三月後半には、二七箇所のコースが出来ており（読売三・二三）、その後も増加したものと思われる。

関西では、三〇年一二月、大阪市京町堀ビルディング屋上に開設されたものが最初といい、その後、大阪・神戸・京都などに多くのコースが開設された（ベビーゴルフ研究会一九三一年）。

三〇年一〇月、大阪朝日新聞の社屋として建設された朝日ビルでは、屋上が冬はスケートリンク、夏はベビーゴルフ場になると報じられている（大阪朝日一〇・二六）。

同年六月頃には、「東京市及び郊外を含めて六十余のベビーゴルフ場が經營されてゐる。横浜市や名古屋関西方

と、廃材等を使って「近ごろ大流行のベビーゴルフ」を家庭で遊べるようにする製作記事（読売三・一一）や、家庭中や庭で遊べるように障害物やボール・クラブがセットになつた、二円三〇銭ぐらいの子供用の製品も出てきていた（朝日六・一四）。

このように、一九三一（昭和六）年には、大流行となつていた。

県内各地に設立

神奈川県内では、二月頃からベビーゴルフ場の名前が新聞に登場するようになる。最初は、横浜市の関内地区が記事となつてゐるが、後述することにして、先ず、県内各地に出来ていく様子を見ていく。

二月二八日には、横須賀市の記念艦三笠の正門前埋立工事が五月頃に完成するので、三笠保存会ではベビーゴルフを作つて見学者を賑わす一策とすることになつたと報じている（横貿二・二八）。

横須賀市では、三月には、市議新野勇吉が若松海岸に計画していたベビーゴルフ場が竣工し、二九日に盛大な開場式を行つたと報じられ（横貿三・二六）、四月五日の記事では、観念寺海岸埋立地野球場の横に造られた同ベビーゴルフ場は、約二〇〇坪の広さのコースに、半島名勝三崎・城ヶ島・ペリ記念碑・鎌倉の大仏・浪子

不動・追浜航空隊号が造られており、三月二九日に開場して少年や婦人を喜ばせていると報じられた（横貿）。四月三日には、「今三日開場の横須賀ベビーゴルフ場」の写真が掲載されており、着物姿の女性がプレーをしている様子とそれを見物している人々、後ろには燈台らしきものが写つてゐる（横貿）。

このように新たに造られるものだけではなく、既存の施設でも取り入れられてゐる。鶴見の花月園では、四月一日より「従来は子供の園として昼間のみ開園して居りましたが京浜間に大人用の娯楽遊園が有りません故午後六時より夜間を無料開放」するとして、玉突・ピンポン・ベビーゴルフ・活動写真・演芸館の施設を挙げて広告を出している（横貿三・一〇）。五月の「郊外散歩好時季」に出した広告（図参照）でも、「園中のベビーゴルフ。室内野球。



郊外散步 好時季

當園は裏に入園料の大値下を致しました御蔭様で好結果を得ます。園中のベビーゴルフ。室内野球。乗馬。ダンスは共に健康増進の遊戯であります。櫻雲臺の洋食部は破天荒のソトケイキ紅茶付30は上流御家庭の御評判良好であります。御入園の際は是非御試食を願ひます。

花月園の広告（『横浜貿易新報』5月2日）

乗馬。ダンスは共に健康増進の遊戯であります」と宣伝をしている。同年発行の案内図によると、舟遊びができる池を挟んで、歌劇場の向かい側にベビーゴルフ場が記載されている(斎藤美枝二〇〇七年)。また、東京の例であるが、多摩川園が「安全なお花見」という広告の中で「ベビーゴルフ場・完成 独特のコースナル」と記している(横賀四・三)。このように、既存の遊園でも取り入れられていた。

夏には県内各地に海水浴場が開設されたが、そこでもベビーゴルフ場の名前があがつている。三浦郡逗子町では、五月一五日に逗子海岸の海水浴場更衣所、喫茶店、遊技場の設置出願を締め切つたが、一三五件の出願には、射的、撞球、半弓、球投げなどの遊技場の他に、新しい施設として、東京中野町の会社員が岸別荘下の海岸にベビーゴルフ場の設置を出願していると報じられた(横賀五・一六)。

湘南電鉄が設置する馬堀海水浴場(横須賀市)についても報じられている。六月一日、四〇〇坪の海の家を建設する予定で官有地使用について県から認可され、さらにその隣接した砂地五〇坪の使用許可を提出したが、

新たな税源として

神奈川県では、同年二月、麻雀・ベ

ビーゴルフ場・魚釣・射的・撞球など

の遊技場の料金が不統一で共倒れとなるおそれもあるので、これらの遊技場の組合設立などを認める「遊技場取締規則」の改正を行つた(横賀二・二二)。

一方、流行に伴つて、ベビーゴルフ

場から徴収する税額を上げていこうと

駅裏の海岸から二町(約二二〇メートル)のところにある庭園地を利用して、ベビーゴルフ場を設置することになり、神奈川県都市計画課太田謙吉技師に設計を依頼し、具体案が出来たので近日着工する予定と報じられた。敷地は三〇〇坪、築山、泉水、池、四阿、ベンチ、飛石、藤棚などを配置した計画であつた(横賀七・一七)。中郡大磯町でも西村という人物が、北本町の空き地一〇〇余坪をベビーゴルフ場として使用するとして申請(同)、八月には、一日から開業し避暑客のサービスに努めていると報じられている(横賀八・二)。

その他にも、川崎市では市内の直井勝蔵が、体育奨励と娯楽を兼ねて、省線川崎駅前のカフェー松葉屋裏に約二〇〇坪のベビーゴルフ場を設置し、開場には市長代理が始球式を行つてゐる(横賀七・一二、七・二三)。

このように、県内各地に続々と造られていた。

神奈川県では、同年二月、麻雀・ベビーゴルフ場・魚釣・射的・撞球など

の遊技場の料金が不統一で共倒れとなるおそれもあるので、これらの遊技場の組合設立などを認める「遊技場取締規則」の改正を行つた(横賀二・二二)。

一方、流行に伴つて、ベビーゴルフ

場から徴収する税額を上げていこうとなつていて、その後の参事會における

いう動きも出てきていた。

四月、政府は地方税などの整理をするために、税制整理準備委員会を設置した。六月の報道では、内務省案では、

駅裏の海岸から二町(約二二〇メートル)のところにある庭園地を利用して、ベビーゴルフ場を設置することになり、神奈川県都市計画課太田謙吉技師に設計を依頼し、具体案が出来たので近日着工する予定と報じられた。敷地は三〇〇坪、築山、泉水、池、四阿、ベンチ、飛石、藤棚などを配置した計画であつた(横賀七・一七)。中郡大磯町でも西村という人物が、北本町の空き地一〇〇余坪をベビーゴルフ場として使用するとして申請(同)、八月には、一日から開業し避暑客のサービスに努めていると報じられている(横賀八・二)。

その他にも、川崎市では市内の直井勝蔵が、体育奨励と娯楽を兼ねて、省線川崎駅前のカフェー松葉屋裏に約二〇〇坪のベビーゴルフ場を設置し、開場には市長代理が始球式を行つてゐる(横賀七・一二、七・二三)。

このように、県内各地に続々と造られた(横賀七・一二、七・二三)。

このたび「外人向きの娯楽機関として目下流行しつゝある」ベビーゴルフ場を紅葉ヶ丘官邸の庭に造ることにし、県営繕課に命じ、設計図が出来上がり猛烈なる勢ひで流行し県下各所に続々としてベビーゴルフ場が新設されるので、鵜の目鷹の目で税源を物色してゐる県では、早くもこれに課税することにした。しかし、現行では、ベビーゴルフ場はその他の遊技場にあたり、広狭にかかわらず月税二円六〇銭のみなので、県会を待たず参事會において、増加する毎に一円を増加する案を検討中であると報じられている(横賀六・一六)。これに対し「営業者はビツクリ」して、先述の横須賀市議新野勇吉を中心として場主が集まり組合を結成し、「新税反対に猛進する筈」と報じられた(横賀六・一〇)。このように、ベビーゴルフ場は組合を結成するまでになつていて、その後の参事會における議論は分からぬが、同年一〇月の課目課額告示には、ベビーゴルフは入っていない(『神奈川県公報』五一四、三一年一〇月二七日)。

東京府でも同年一一月、ベビーゴルフ税が野球観覧税・タンク税と共に、新税としてあげられている(読売一一・二〇)。

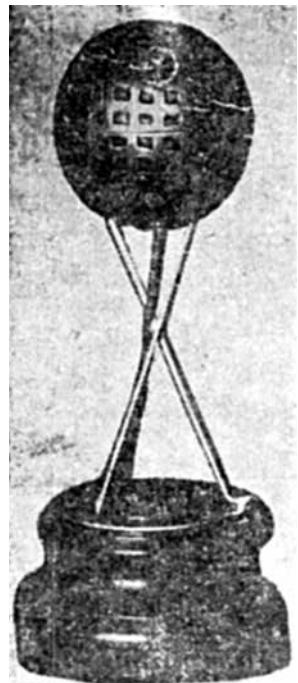
ところで、神奈川県では、税とは直接関わりはないが、次のような話もある。県知事山縣治郎は「外人関係に対する社交振りは満点で在浜外人から非常なる好感を以て迎へられてゐる」が、このたび「外人向きの娯楽機関として目下流行しつゝある」ベビーゴルフ場を紅葉ヶ丘官邸の庭に造ることにし、県営繕課に命じ、設計図が出来上がり猛烈なる勢ひで流行し県下各所に続々としてベビーゴルフ場が新設されるので、鵜の目鷹の目で税源を物色してゐる県では、早くもこれに課税することにした。しかし、現行では、ベビーゴルフ場はその他の遊技場にあたり、広狭にかかわらず月税二円六〇銭のみなので、県会を待たず参事會において、増加する毎に一円を増加する案を検討中であると報じられている(横賀六・一六)。これに対し「営業者はビツクリ」して、先述の横須賀市議新野勇吉を中心として場主が集まり組合を結成し、「新税反対に猛進する筈」と報じられた(横賀六・一〇)。このように、ベビーゴルフ場は組合を結成するまでになつていて、その後の参事會における議論は分からぬが、同年一〇月の課目課額告示には、ベビーゴルフは入っていない(『神奈川県公報』五一四、三一年一〇月二七日)。

横浜市では、二月、関内地区にベビーゴルフ場ができ、新聞に広告を掲載している。神奈川県内では、早い時期のベビーゴルフ場である。

このコースは、横浜インターナショ

関内のベビーゴルフ場

横浜市では、二月、関内地区にベビーゴルフ場ができ、新聞に広告を掲載している。神奈川県内では、早い時期のベビーゴルフ場である。



「貿易トロフィ」
(『横浜貿易新報』10月15日)

婦人学生二
十五銭」と
あり(横貿
七・二四)、
一回の料金
は一〇銭、
「婦人学生」
は五銭の値

戦ベスト・エイトからの結果が判明す

る。これによると、ベスト・エイトに

は外国人二名を含めて、松井・大石・

シルバー・ダーラン・矢原・吉澤・半

田・後藤の八人が進み、準決勝には松

井・シルバー・矢原・半田が進んで、

決勝では松井と半田が対戦し、半田が

五六点と一点差により優勝している。

半田は、第一回選手権大会の優勝者で

あつた(横貿一〇・二四)。

その後のベビーゴルフ

選手権を開催した横浜トムサム・ゴ

ルフ場は、冬季は休業し設備を整えて

いた(横貿三二・三・一一)。屋外で

行うスポーツなので、冬の間はコース

が閉じていたようである。翌一九三二

(昭和七)年三月、「春はゴルフから」

の意気込で「新装オープンをすること

となつたと報じられ、「更に大衆に迎

合されるやうに」料金を値下げしてい

る(同)。同日に掲載された広告を見

ると、料金は一回三〇銭、「御婦人と

学生」は二〇銭であった。先に見た記

事には、「一回十八コースにて四〇銭、

下さであつた。

その他に同月には、川崎ベビーゴル

フ場でも、「奇抜な興味深いコースに

改築し場内を刷新」したので来遊を待

つてゐるという記事が掲載されている

(横貿三二・三・二七)。

三二年の春には、このようにオーブ

ンを告知する記事があつた。しかし、

これ以後、『横浜貿易新報』紙面では、

ベビーゴルフについてほとんど報道さ

れなくなつた。後年、このベビーゴル

フの流行について、上原啓二は「数年

の間は盛んであったが」、飽きられて

若干のコースは残つたが多くが無くな

ったと書き(上原啓二一九六九年)、

また、「朝日新聞」三五(昭和一〇)

年七月には、政争をベビーゴルフに例

えて「いつまでも時代遅れの小ゲーム

が閉じていたようである。翌一九三二

(昭和七)年三月、「春はゴルフから」

の意気込で「新装オープンをすること

となつたと報じられ、「更に大衆に迎

合されるやうに」料金を値下げしてい

る(同)。同日に掲載された広告を見

ると、料金は一回三〇銭、「御婦人と

学生」は二〇銭であった。先に見た記

事には、「一回十八コースにて四〇銭、

く末を、簡単に見ておこう。

花月園では、昭和一〇年代発行とさ

れている「花月園案内図」には、三一

婦人学生二
十五銭」と
あり(横貿
七・二四)、
一回の料金
は一〇銭、
「婦人学生」
は五銭の値

(昭和六)年と同様に「ゴルフ」場が
描かれているが、三六(昭和一二)年
以降とされている「竹生島弁才天奉安
所花月園案内図」には、同じ場所に
「小猿山」とあり、ベビーゴルフ場は
無くなっている。しかし、「ゴルフ場
は戦後、花月園競輪場となつても存在
していた」(斎藤美枝一〇〇七年、三
〇五頁)との記述もあり、何らかのか
たちで続いていたようである。

関内地区のベビーゴルフ場について
は、昭和初期の火災保険図により土地
の様子を見てみよう。

一九三八年(昭和一三)年「関内方面
No.11」を見ると、「横浜トムサム・ゴ
ルフ場」の山下町二三三(正確には二
二三ノ一)には、建物は存在しない。

この場所は、三〇年頃にはゴーバイ・

カラunjia・リミテットの所有とあり

(『横浜市土地宝典 中区之部』)、関

東大震災によつて神戸に移つたインド

系貿易商の所有であつた。同社は神戸

市磯上通にあり(『神戸市商工名鑑』

昭和五年)、山下町二二三は、その後

も空き地のままで、余り活用されてい

ないようである。

山下町五三は、三〇(昭和五)年に

は空き地で、三八(昭和一三)年に鉄

筋コンクリート造、五階建ての「ヘル

ムハウス」(火災保険図「関内方面

No.19)が建設されて

いる。一階にヘルム商会があり、上部

はアパートであつた。

山下町一三六は、現在の横濱媽祖廟

はよく分からぬ。

桜木町一一一は、横浜市中央授産所

(興産館)などがあつた場所で、三〇

年「戸部方面追加A」では、一一一

九に空き地があるので、そこに開設さ

れていた可能性が高いが不明である。

一九三一年、全国的に族生したベビ

ーゴルフ場は、流行が去つた後にも、

若干は残つていつたものもあるが、多

くは消えていった。

参考文献

西村貫一「趣味のベビーゴルフ」(文友社)

一九三一年、下羽寅吉「ベビー(小型)ゴ

ルフ」(日本小型ゴルフ商会)一九三一年、

ベビーゴルフ研究会編『ベビーゴルフの遊

び方』(いづみや書店)一九三一年(商店界)

編輯部「ベビーゴルフ場の経営法」(商店

界)第一卷第八号)一九三一年八月、上

原敬二「庭園入門講座 第五卷」(加島書店)

一九六九年、斎藤美枝「鶴見花月園秘話」(鶴

見区文化協会)二〇〇七年、金井格「名譽

会員 戸野琢磨先生をしのぶ」(『造園雑誌』

第四九卷第一号)一九八五年、読売新聞社

横浜支局編「ランドマークが語る神奈川の

100年」(有隣堂)二〇〇一年、伊藤泉美

「一九三〇年代後半の横浜中華街とその周

辺」(『横浜開港資料館紀要』二九)二〇一

年。『朝日新聞』は聞蔵IIビジュアル、「読

売新聞』はヨミダス歴史館、「大阪朝日新聞」

「国民新聞」・「中外商業新報」は神戸大附

属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文

庫」による。※新聞名は略称、年月日のうち、

昭和六年の記事は年を省略した。